

二唐 空々（にがら・くうくう）

1、プロフィール

俳人。昭和初期から「十和田」「鶴」などの俳誌で句境を深め、それらの同人となる。「十和田」の編者のほか青森県俳句懇話会副会長など県俳壇の指導者地位にあった。

<生没>

1910(明治 43)年2月 12 日 ~ 1982(昭和 57)年4月8日

<代表作>

句集『二唐空々句集』

<青森との関わり>

生涯教壇に立つとともに句作に努め県内俳誌「十和田」や県内俳句団体の中心的人物であった。

2、作家解説

俳人。明治 43 年 2 月 12 日弘前に生まれる。本名唯七。昭和 3 年青森師範学校本科二部卒業後、小学校訓導、教諭を経て、青森市立中央高等学校教頭、45 年定年退職後は私立東奥女子高校に勤務する。遡って昭和 8 年、浪岡小学校勤務中、及川朶々、矢野蓬矢により作句を始め、主として「十和田」および「鶴」に投句、増田手古奈・石田波郷に師事する。その間、「ホトギス」、山口青邨の「夏草」、富安風生の「若葉」にも投句。25 年から 32 年まで「十和田」の編集に従事する。42 年青森市立中央高校に俳句結社「満天星」を創立主宰し、以後毎年合同句集『満天星』を発行。48 年「十和田」500 号にあたり、功労賞(小島喜草賞)を受ける。また「十和田」に「漱石と俳句」「数と俳句」などの随筆を連載、「鶴」にも随筆を発表。「十和田」「鶴」の同人であり、青森県俳句懇話会副会長・青森市俳句連盟会長・俳人協会会員でもあった。57 年 4 月 8 日死去。享年 72。法名念阿教導居士。

以下虚子・手古奈の共選句。

田植女は添乳する間もねむりこけ
ふるさとは雨の日も好き夏炉もゆ
色あせし昼の妄武多は力ぬけ

3、資料紹介

○『二唐空々句集』

図書

1983(昭和 58)年4月8日

190mm×130mm

総句教 1276 句。巻頭虚子選 25 句、以下自選ノートから俳誌「十和田」「鶴」などに出句したものを年次的に編集した。増田手古奈の序、二唐八重の後記、村上三良の跋がある。昭和 10 年から 47 年間、句を欠いた年がないのは特筆に値する。